花見川団地分館　一般展示のお知らせ

花見川区の歴史

花見川団地分館では、今回花見川区の歴史に関わる本を、所蔵本を中心にリストアップしました。

花見川区のうち、幕張・検見川・武石・畑・長作・天戸・花島・犢橋・柏井・横戸・宇那谷の各町は、古い歴史を有する町です。これらの町を中心に、町の歴史・町名由来などを簡明に記した本や、区の歴史において避けて通れない、歴史的事柄を記した本を展示しています。

一例をあげますと、天保期の印旛沼堀割工事・御成街道・牧・大賀ハス・検見川無線送信所・花見川団地・京成電鉄・総武線・千葉寺十善講・三山の七年祭（畑子安神社・幕張子守神社）などに関わる本です

○資料リスト

花見川区の町の歴史

例えば『社寺よりみた千葉の歴史』をご覧になると、町の歴史を調べるうえで重要な、神社と寺院の歴史について、著者である和田茂右衛門氏（明治 31 年～昭和 58 年）の、実地検証に基づく、平明で分かりやすい文章に接することができます。

なお、この本では、区内の検見川・幕張・武石・天戸・長作・花島の各町他について記しております。

また、同じ著者による『千葉市の町名考』では、市域の町名由来について、簡明に記してあります（但し、土気地区は除く）。

印旛沼堀割工事

かつて花見川区の横戸町と、柏井町付近を分水嶺にして、一方は印旛沼に、もう一方は江戸湾に向かって川が流れていました。江戸時代に、この二つの川を堀で結び、一つの水路にしようとした工事が３回行われました。今回は、老中水野忠邦が行った天保の改革の柱として、天保14年（1843）に実施された、３回目の工事に関わる本などを用意いたしました。特に『天保期の印旛沼堀割普請』は、この工事の史料を集成しております。

検見川無線送信所

大正15年（1926）４月１日に開局した検見川無線送信所（東京無線電信局検見川送信所）は、落成に際して「同電信局は、真空管式としては東洋一の無線局で、南洋其他の植民地を主として発信すべく過般試験を行った結果、良好なる成績を収めた」(「千葉毎日新聞」大正15年３月14日」）とあります。また、検見川町に残る史料には、設置の目的を「植民地及内地における主要無線電信局と直接通信する」とあります。

太平洋戦争後は、都市化で空中線の下まで人家が迫ったので、無線通信を行うことが困難になり、昭和54年(1979)２月には送信を完全に停止しました。今回は、初代所長を務めた菊谷秀雄氏の回想録『検見川無線の思い出』を展示しました。

京成電鉄

京成電鉄（京成電気軌道㈱）は、大正元年（1912）11月３日に営業を開始しました。押上を起点に順次路線を延長しましたが、同10年（1921）７月17日に船橋から千葉まで開通しました。

この時、区内の駅である、京成幕張・検見川の両駅が開業しまし

た。なお、京成幕張本郷は平成３年８月７日の開業です。

また、社名のとおり東京と成田を結ぶ路線は、大正 15 年(1926) 12 月 9 日に、京成津田沼から京成酒々井まで開業しています。成田までは同年の 12 月 24 日に開業し、新年の成田詣でに間に合いました。

花見川団地にお住まいの方々が利用する八千代台駅は、昭和 31 年（1956）3 月 20 日の開業で、同団地は昭和 43 年（1968）9 月に入居が始まりました。

詳しくは『京成の駅　今昔・昭和の面影』、花見川団地については『30 周年「ふるさと」づくりの記録』などをご覧ください。

総 武 線

総武線は、総武鉄道として明治 27 年(1894) 7 月 20 日に、市川と佐倉の間が開通しました。その後、同年 12 月 9 日に市川と本所の間が、明治 30 年 6 月 1 日には本所と銚子の間が全通しています。

区内の駅ですが、明治 27 年 12 月 9 日に幕張駅が、昭和 26 年（1951）7 月 15 日に新検見川駅が開業しています。

詳しくは『総武線　120 年の軌跡』をご覧ください。

展示写真